

平成26年第12回 魚津市教育委員会会議録

1 開催日時及び場所

平成26年11月4日（火）午後4時

第一分庁舎2階会議室

2 出席委員

1番 潮 由 加 子

2番 畠 山 敏 一

3番 大 野 聡 一

4番 島 津 豊

5番 長 島 潔

3 出席職員

次長兼教育総務課長	川 岸 勇 一	学 校 教 育 課 長	八 倉 卷 清 彦
生涯学習・スポーツ課長	南 塚 智 樹	こ ども 課 長	高 木 繁 徳
学校給食センター所長	住 田 賀 津 彦	図 書 館 長	中 山 明 夫
水族館管理係長	門 田 信 幸	埋 没 林 博 物 館 長	麻 柄 一 志
教育総務課長代理	江 田 直 樹	生 学 ・ ス ポ 課 課 長 代 理	高 山 茂 樹
学 校 教 育 係 長	矢 野 道 宝	生 涯 学 習 係 長	藤 田 晶 子
ス ポ ー ツ 係 長	小 林 弘 幸	教 育 総 務 課 主 任	明 石 主 計

4 傍聴人 なし

5 会議の要旨

午後4時、潮委員長が開会を宣する。

(1) 前回会議録の承認

全員異議なく承認した。

(2) 議案

議案第28号 魚津市中心身障害児就学指導委員会規則の一部改正について

矢野学校教育係長から説明し、全員異議なく承認した。

(3) 報告事項

① 平成25年度実績に関する施策・基本事業評価表（兼主要な施策の成果報告書）

（説明 川岸次長及び関係課長）

② 平成25年度事務事業説明書について（説明 各課等の長）

③ 魚津市立片貝・吉島・西布施小学校統合準備会について（説明 江田教育総務課長代理）

④ 魚津市教育委員会沿革の概要について（説明 江田教育総務課長代理）

(4) 議事

【議案第 28 号 魚津市中心身障害児就学指導委員会規則の一部改正について】

大野委員

心身障害児とはどのような子どもを指すのか。

矢野学校教育係長

学校教育法施行令第 22 条の 3 に定められている障害をもつ児童を指し、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱者との区分がある。

大野委員

不登校児など心の問題のある子どもたちは入らないのか。

矢野学校教育係長

その通りである。

畠山委員

第 2 条の児童生徒等の「等」とは就学前の幼児を指すと解釈してよいか。

矢野学校教育係長

児童生徒等は、第 1 条に規定する障害のある就学前の幼児、児童及び生徒並びにその保護者を指している。

【平成 25 年度実績に関する施策・基本事業評価表（兼主要な施策の成果報告書）について】

畠山委員

学校教育課から説明のあった不登校に関しては、スマイルの開設や各学校等での対応も充実するなど一生懸命努力されているのは十分承知している。しかし、小学校の場合、（不登校の割合が）目標値に比べると減少傾向にない状況との報告であった。現場は相変わらず大変だということを感じている。

現在の対応にさらに付け加えるとすれば、個別の事例ごとに専門家の意見を伺いながら（不登校の）原因の分析に力を入れていただければ良いと思う。小学校で原因を分析していくと就学前の幼児期の成育歴に原因がある子どもも出てくるのが予想されるので、就学前の幼児期から連携を図ったり、情報も集めて対策を考えていくことも必要だと思う。

小学校（の不登校）が減少すれば、中学校にも影響すると思うので、なかなか難しい問題ではあるが、今後とも努力をお願いしたい。

八倉巻学校教育課長

不登校の出現率自体は、国や県よりも低い。しかし、ご指摘のとおり相当数いるので現場では対応に苦慮している。不登校のきっかけは、小学校では最も多いのが親子関係で 3 割強、中学校では無気力が 2 割 5 分となっている。この背景や要因を調べていくと複合型が約半分となる。小学校での親子関係というのは、親の叱責により落ち込んで学校に行かないということが多く、中学校では、勉強ができないことが大きな要因でそれに友達関係が絡まって登校したくないということが起きている。

こうしたことから学校では、楽しい授業、わかる授業を原点に日々研修を行っているが、子どもの気持ちを受け止めることも重要と考えている。中学校ではスクールカウンセラーが必ず入っており、加えてスクールソーシャルワーカー（臨床心理士）が小学校 3 校と中学校 2 校に配置されている。常時出勤というわけにはいかないが、教員の悩みや親や子どもの悩みを聞いてもらったり、指導法を仰いだりしている。

日頃から子どもたちの様子の変化に気づく教職員の感性が大事なので、一人ではなくチームで気付いたことを相談し合うといった体制づくりで臨んでいる。すぐに解決することは難しいが地道に研修も継続していきたい。

大野委員

以前は、3年生か4年生を対象に「9歳のひとり立ち」という2泊3日ぐらいの事業があった。いろんなことにチャレンジするということが非常にいい企画だった。その辺で人間形成できればまた違うのではないか。学校とPTAが一丸となり子どもたちも生き生きしていた。

長島教育長

市内で1校から2校ずつやっていた。きっかけは、県の補助事業だったが、結局、予算が付かず市単で実施した経過がある。子どもにいろんな自然体験をさせたり、夜は子どもの健全育成について保護者と懇談したりと非常に良い事業であったので、また検討してみたい。

大野委員

昔は、中学校でリーダー研修会のような事業もあったと思うが、最終的にはコミュニケーション能力を培っていくことが必要だ。小さなコミュニケーションができなければ大きなコミュニケーションはできない。

潮委員長

郵便局では、小中学校に年賀状とくぼみ入りハガキを無料で配布している。ハガキにくぼみが入っていることによって目の見えない方に表裏がわかるようになっている。中学校では、来年の14歳の挑戦の時にハガキをお礼状に使いたいということであった。受け取られた企業の方は中学生から手書きの礼状を受け取って大変喜ばれているそうだ。子ども達はハガキを書いたり、受け取ることは無くなってきている。小学校では元旦に子どもから親への年賀状が届くようにしており、親からも喜ばれている。郵便局でもこうしたことを通じ、書いて伝えるということもコミュニケーションのきっかけになればと思っている。

午後5時25分、議事が終了したので委員長が閉会を宣した。